おへそ

多久市立 東原庠舎中央校（義務教育学校）

学校便り　Ｎｏ．４　　令和６年７月１２日

★学校教育目標　　夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成

★学校スローガン　夢を現実（かたち）に！チャレンジ！中央校！

文責　校長　田　代　豊　樹

多久市少年の主張発表会

６月２２日（土）に第４３回多久市少年の主張発表会が開催されました。中央校からは、８名の児童生徒が出場しました。

主張の題材としては、生活経験から生まれたもの、世相や社会的な課題を背景にしたもの、故郷多久が抱える課題にスポットを当てたもの等があり、多久の子どもたちの関心や思いが向かっている先がどこであるのかを読み取ることができるものでした。審査の結果、中央校では、６年生　森岡　彩乃さんの主張が優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。

子どもたちの主張はどれも素晴らしいものでした。一人ひとりの個性や鋭い感性、表現力の豊かさが見事に表現されていました。発表者には、今回の経験から得たものをこれからの生活に生かし、更に豊かな心を育んでくれることを期待します。

学年	氏名	主張テーマ
６年１組	門川　苺楓	石川県能登半島地震
６年１組	北島　澪	新型コロナの影響について
６年２組	片桐　夏帆	私の将来の夢
６年２組	森岡　彩乃	多久市の人口を増やすために
６年３組	陣内　日菜子	将来の夢
６年３組	中溝　葉月	地震について調べて考えたこと
９年１組	船﨑 俊翔	祖母が教えてくれたもの
９年３組	嶺川 明希	戦争をなくすために

※裏面に、優秀賞に選出された６年２組　森岡彩乃さんの主張を紹介します。

生活委員会の子どもたちからのお願いです！！

◆生活委員会からのお知らせです！

私たちは、ベルマークとプルタブを集める活動をしています。最近集まらなくて困っています。ご家庭内で集まっているものを持ってきてください。ご協力をお願いします。

先日、生活委員会の子どもたちが、ベルマークとプルタブの回収について学校便りで家庭に呼びかけてほしいと、校長室に直談判にやってきました。子どもたちの勇気ある行動を頼もしく感じました。

保護者の皆様、ベルマークやプルタブがご家庭にございましたら、是非、回収にご協力いただきますようお願いしいます。

『多久市の人口を増やすために』

東原庠舎中央校　　6年　森岡　彩乃

私は多久市の人口を増やしたいです。そう思ったのは、多久市の人口が減ってきているという記事を新聞で見たからです。その記事には、2050 年までに大幅に多久市の人口が減少するという記事がありました。2050 年度の多久市の人口は 2020 年度と比較して、43.7%減の 10306 人になると予測されています。県内ワースト 2 位の大幅な人口減少予測だそうです。2050 年、私は 38 歳になっています。クラスのみんなは、その時多久市に住んでいるのかな？と気になりました。

そこで私は、クラスのみんなに「大人になったら多久市に住みたいか」についてアンケートを行いました。「多久市に住みたい」と答えた人はたったの 30%でした。主な理由は、多久市が自然豊かで落ち着くから、親が多久に住んでいるからでした。一方、70%の人は、行きたい店がないから、働く所がないからという理由で、「多久市以外に住む」と答えていました。

また、「多久市に何があればいいと思うか。」という質問をしたところ、1 番多かった意見は、ショッピングセンターなどの買い物をするところでした。2 番目に多かったのは、遊園地、ボウリング場、ゲームセンターなどの遊ぶところでした。3 番目は食事をするところでした。

消滅可能性都市は、出産の可能性がある 20 代～30 代の若年女性の数をもとにして考えられているそうです。多久市の 2050 年若年女性数の予測は 626 人なので、ひと学年あたり約 30 人の計算になります。しかし、私がクラスで行ったアンケートでは、大人になっても多久に住みたいと答えた女の子は 1 人だったので、だいぶ心配です。

そこで私は、アンケートの意見も踏まえ、多久市がこんな風になったら女性の人口が増えると思う事を 5 つ考えました。

１つ目は、買い物する場所を増やすといいと思います。服や靴、食べ物、メーク道具、推し活用品など女の子がワクワクするお店がほしいです。

２つ目は、飲食店が増えるといいと思います。ハンバーガー屋や回転寿司、カフェなど今日はどこに行こうと選べるほどお店あればいいと思います。

３つ目は、便利な場所に住宅地ができるといいと思います。例えば、先ほど述べた買い物する場所や飲食店が多くある場所の近くや、働く場所の近くに住宅地があると、もっと多久に人が集まると思います。

４つ目は、公園や遊園地、映画館、ボウリング場、ゲームセンターなどの遊ぶ場所があれば良いと思います。これらは、女の子だけでなく、子どもから大人まで楽しむことができると思うからです。

最後に、安心して医療を受けられると良いと思います。産婦人科や小児科があって、いつでも救急外来の受け入れをしてもらえたら、子育てをする親はもちろん、お年寄りになっても、安心して住み続けることができる市になると思います。

私たち小学生は、今後、進学や就職で多久市を離れる可能性があります。一度離れてしまったとしても、私が考えたような「多久に住み多久なる」環境があれば、きっとみんな「住み多久」なって帰ってくるでしょう。このような社会を大人のみなさんで考えてもらえたらうれしいです。